

やなせたかしのメルヘン絵本

田郷岡 美佐江

東日本大震災の翌年に、私はやなせたかしさんのメルヘン絵本に出会いました。当時私は小学校の副校長をしていましたが、病気休業を取った教員に代わり一年生の担任もしていました。読み聞かせ教材を探していたある日、ふと目にしたのが、朝日小学生新聞に連載されていたメルヘン絵本、「奇跡の一本松」の物語でした。子供たちに読み聞かせた後、東日本大震災のことや、やなせたかしさんの著書などについて、話し合いをしました。すると、子供たちは、「感想文を書いて子ども新聞に送ってみよう。」と、皆一生懸命に原稿用紙に向

かい始めたのです。幼児の頃からアンパンマンが大好きだったことに加え、この物語は事実が背景となっているため、子供たちの心を強く揺さぶったのでしょう。震災当時はまだ就学前でしたが、大地の揺れや、その後の被害状況等を、記憶に留めており、大震災の被害に会われた方に思いを寄せる内容の感想が、たくさん書かれていました。朝日新聞社に送付して一か月ほどたったある日、数冊の絵本とやなせたかしさんからの手紙が学校に届きました。予想だにしていなかった出来事に驚き、感激し、子供たちと心から喜び合いました。温かく思いやりに溢れた手紙の文面に、どの子もキラキラと目を輝かせ、幸せそうに笑顔を交わし合っていた情景は、今も心に刻まれています。思い返すと、私が二人の息子の子育てに追われ

ている頃、「アンパンマン」には、大変お世話になりました。仕事をもっている私が、子供たちと触れ合えるのは、出勤前の一時間と、帰宅後の二・三時間だけです。夕飯の準備や食事をしながらの語らい、そして、お風呂の中での憩いの時間が終わると、早々に寝かしつけます。その際、毎回登場するのが、「アンパンマン」。子供たちが就寝前に、私に読んで欲しい本を自分たちで選んでから、ベッドに入るのですが、数冊の本の中には必ず「アンパンマン」が含まれているのでした。

この本は何故、こんなにも幼い子供の心を捉えて放さないのでしょうか？本書が発売された当初の評判は芳しくなく、幼児教育に携わる方から、「自分の顔を食べさせるなどという残酷なストーリー」は子供に悪影響を及ぼす。」という内容の投書

が寄せられたそうです。でも、子供たちは、物語の根底に流れる、真実の正義と勇気、優しさに心を揺り動かされるのでしよう。二〇年たった今日でも、アンパンマンは子供たちの永遠のヒーローです。著書には、作者のメッセージが存在します。ずっと以前に、やなせたかしさんの人生を特集した番組を見ました。恵まれた人生どころか、むしろ、不遇と言える程の困難な道のりでした。でも、穏やかな表情で語る、やなせたかしさんは、あくまでも優しく、明るく、そして温かい雰囲気にあふれていました。

絵本の読み聞かせは、子供の心の発達を促すだけでなく、親の心の栄養にもなっています。たとえその日が不運の連続に見舞われ、どんなに心が疲弊していても、子供を眠りにいざなうために読

んでいる絵本が、穏やかな気持ちを私に運んでくれたものです。著者が発信するメッセージは、子育てや自己の生き方をより良い方向に導いてくれるのでした。

てごらん、ピープー」を。

私は退職を間近に控えた現在でも、職業柄、数多くの絵本を手に取ります。私が特に心に留めておくのは、巻頭や巻末に載っている、著者や訳者の言葉です。本に込められた深い思いを感じ取ることができます。「大人こそ絵本を」という、柳田邦男先生の言葉が心に響きます。本校や併設園の保護者にはこれからも、子供への絵本の読み聞かせを奨励していきます。そしていつの日か、授かるであろう孫にも、読んで聞かせたいと思っています。私が愛してやまない、柳田邦男先生訳、「だいじょうぶだよ、ゾウさん」や「くもをおいかけ